



子どもたちの一筆一筆が 町の名所に！

第9回 町内小中学生壁画大会行われる

長さ100mの壁面は
野外のキャンバス

9年前から恒例となっている町内小中学生壁画大会が、くまもと教育の日関連事業として11月23日、町民グラウンド西側の秋津川左岸壁面で行われました。

「私たちのふるさと」をテーマに町内の6年生約300人と中学生数十人が秋晴れのもと制作に挑みました。

事前に町P連の役員の方々が用水路にコンテナを敷き詰めたり、ビニールを張ったりして子どもたちの安全に配慮されていました。子どもたちはレインコートを着たり買い物袋で靴を覆ったりして



思い思いに壁面を彩る子どもたち



豚汁やおにぎりを振る舞う町P連母親部のみなさん

50区画100mの野外キャンバスに向かいました。赤・黄・青・白・黒と面白い色のエコペイントを使って、切り抜いたペットボトルやトレイをパレットに新しい色を作って進めました。

最初は「色を混ぜるのが難しい」、「消せないから緊張する」、「ペンキが垂れて大変」などと恐る恐る描いていましたが、時間とともにコンクリートの壁面が色鮮やかに変わっていききました。

開始から3時間、完成が近づくと「皆で協力するから楽しい」、「広

毎回、絵のサポート役で参加してくださる益城絵画クラブやソレイユ益城、二水会の皆さんも近くを散歩される方々に楽しんでもらいたいと話されていました。

子どもたちを支える 学校・家庭・地域社会

描き終えた後は、町P連母親部や給食センターの皆さんが準備してくださった新米のおにぎりや豚汁に舌鼓をうっていました。また、町婦人会から果物の差し入れもあり、あらためて学校・家庭・地域社会が一体となり子どもたちを支えていた、だいたいすることを強く感じました。

成長して再びこの場所を訪れ、ペンキまみれになりながらみんなで描いた日のことを懐かしく思い出し、ふるさとへの思いを強くしてくれることでしょう。

ぜひ多くの方々に、力作ぞろいの壁画を見ていただきたいと思います。

ふるさとを思い一生懸命に描いてくれた益城特産のスイカや熊本空港や花火大会など、全長900mに及ぶ子どもたちの画に、ぜひふれられ幸せ気分と心の癒しを感じていただければと念じています。

(文責 教育委員 田中茂子)